

皆様、本日は、世界平和祈願祭、並びに、祖霊大祭おめでとうございます。

誠に畏れ多いことではありますが、天地万物一切の創造主であられる唯一の神・主神は、永遠の命の息の源であられ、私どもの中で、また、私どもと一体である先祖の方々や万物の中で、生きておられます。

その主神が私どもの本当の親であることを知ること、このことこそ、私ども人類の救いであり、また、万物の救いであります。

明主様は、ご自身の本当の親が主神であることを「言葉だけでなく事実」として確信されるに至りました。

だからこそ、明主様は「新しく生まれる」と仰り、ご自身の中で、^{まこと}真の主神の子たる「メシヤが生まれた」ことを「生まれたての赤ん坊」と仰ってお喜びになられたと思います。

そして、明主様は、その喜びを私どもにも分け与えてくださるために、今から60年前の昭和29年6月15日、「メシヤ降誕仮祝典」を挙行されたものと私は信じております。

この明主様の喜びは、主神の喜びであり、また、万物の喜びであります。

永遠の命を受け継ぐ主神の子となられた明主様は、この主神の喜びを、今、私ども一人ひとりに分け与えてくださっております。

私どもの意識の中心の一点には、主神の喜びがあり、メシアであられる明主様の大きいなる光明が燦然と輝いております。

本日のみまつりを迎えて、私どもは、今も生きておられる父母先祖の方々と共に、また、万物と共に、永遠の命を受け継ぐ主神の子となるべく養い育てられていることに感謝しつつ、明主様と共にあるメシアの御名にあって、主神をお讃え申し上げたいと思います。

①之光教団の皆様には、常日頃、「真善美」配布、「会う、聞く、浄霊」、そして、「聖地建設」に地道に取り組んでおられますこと、誠にありがたく思っております。

と同時に、皆様が、すべてに主神が現れてくださっていることを認め、明主様に結ばれたものとして、すべてのものと共に天国に立ち返らせていただくという、全く新しい「神中心の信仰」を培うべく励んでおられますことに、私は強く勇気づけられております。

そうした皆様と共に、私は、私どもの^{わざ}業としていたこと、また、徳として

いたことのすべてを、明主様を通して主神に帰^きすことを忘れないようにしなければ、と思わせていただいている次第であります。

さて、私どもの始まりは、すべての始まりである天国にあります。

私どもの本籍はこの天国にあり、ここに私どもの本体、すなわち、“本当のわたし、が存在しております。

ですから、私どもは、私どもの始まりの天国に立ち返らなければなりません。

なぜならば、すべてのみ業は主神から流れ、主神に帰ることが、絶え間ない創造の営みであるからであります。

主神は、ご自身の創造をお始めになるに当たって、あらかじめ天国において、万物の霊と共に、私ども人間となるべき無数の分^{わけ}霊^{みたま}の集合体を用意し、そこにご自身の「神性」を宿してくださいました。

私どもは、始まりの天国にいた時から、明主様に結ばれたものとして主神にお仕えする“公的、な資格を担っていたのであります。

主神は、「神性」を帯びた“公的、な存在である私どもを地上に送り出すとともに、それぞれに「人間性」を帯びた“個人、という資格をも持たせるために、自我意識を創造され、それを私どものもののようにさせてくださいました。

そのために私どもは、それぞれ自分の尺度で、心掛けや言葉、行動などを評価し、判断し、ある時は、個人の善行や徳として誇ったり、また、ある時は、我と執着に囚われていると言って卑下したりして過ごしてまいりました。

主神は、私どもが自我意識を自分のものとしたまま、自分を誇ったり卑下したりしていたことを赦してくださいました。

そして、私どもの始まりである天国に再び迎え入れてくださいました。

それは、私ども一人ひとりをご自身の子とされ、永遠の命を授けようと強く願っておられるからであります。

このことを知ることができたということは、限りある人間の命しか知らなかった私どもにとって、この上なく大きな救いであり、幸せであります。

だからこそ、明主様は、本日の祖霊大祭献歌三首目にありますように、

「万人を救ふといふは永遠^{いのち}の生命^{おし}の道を諭ゆるにあり」というお歌をお詠みになったのではないのでしょうか。

私どもを天国に迎え入れてくださった主神は今、今度は、“個人、という立場を持った私ども一人ひとりが、自らの意思をもって“公的、な立場のある天国に立ち返るという意思表示をすることを待っておられるのであります。

す。

ですから、私どもは、自らの意識の中心に存在する天国に立ち返って、今まで自分のものとしていた自我意識と魂を、明主様を通して主神に委ね、賜っていた「人間性」を「神性」の中に融合して解放していただき、明主様の仰る「神性人間」にならせていただきたいと、今、願うべきではないでしょうか。

そして、私どもは、明主様に倣って、唯一の神・主神を、自らの命の親として素直に認めさせていただくとともに、主神に対して、

“あなたの永遠の命がわたしの中に存在しているにも拘らず、あなたの命をわたしの命としておりました。お赦し下さい。明主様に結ばれたものとして、この命をあなたに委ねますので、あなたの永遠の命に甦らせていただき、すべてのものと共に、あなたの子として新しく生まれさせてくださいますように、と、このような想念で主神に意思表示させていただくことが、私どもを新しく生まれさせようとしておられる主神のみ心にお応えすることになると思います。

明主様は、「人間、個人が天国人とならなければならない」とみ教えくださっております。

明主様がこのようにお説きになったのは、私ども人間が、自分の始まりである天国にいた時から神様にお仕えしていたことを思い出して、天国に立ち返ってきてほしいと願っておられるからであると思います。

天国人という、私どもは、いつも心の中が感謝と喜びに満ち溢れ、安らぎと愛に包まれた状態でなければならないと思いがちですが、たとえその実感がなくても、私どもは、いつどんな時でも、自分の意識の中心の天国において、公的な資格を持った天国人としての御用にお使いいただいているのであります。

それでは、天国人としての御用とは、どんな御用なのでしょう。

私どもは、天国人であると同時に、み教えにありますように、一人ひとり「祖先の综合体」であります。

このことは、私どもが、それぞれのうちにおられる無数の先祖の方々と全人類を天国に立ち返らせるという救いの御用にお仕えするために、この世におらせていただいている立場であることを示していると思います。

先祖の方々は、限りある命しか知らず、そして、神様の永遠の命を受け継がせていただくことができることを知らずに、ひたすら自らの幸福を求めて、常に、怒り、悲しみ、嘆き、喜びながら、この世を懸命に生きてこられました。

た。

そして、自我意識を自分のものとしていたために、明主様が「自己愛」と仰せになりましたように、知らず識らず、自分の好き嫌いや都合を優先し、世界平和を願いながらも、自らの信ずる善悪の尺度と正当性を守るために、人と人、また、国と国との間で、様々な争いを続けてまいりました。

そうした先祖の方々を、明主様と共におられる主神は、夜昼転換という全く新しい創造の営みによって照らし出し、すべてを赦し、浄め、救い、甦らせ、天国に迎え入れてくださったのであります。

主神は今、どのようにご自身の救いのみ業を成し遂げられたかを、天国人という公的な存在である私どもの心と体をお使いになり、いろいろな反応を起こさせて教えておられるのであります。

私どもが、肉体的、また、精神的な病気にかかったり、人間関係を始め、いろいろな問題に直面したりして、心の中に不安や心配、悩みや苦しみ、怒りや悲しみなどの反応が生まれるのは、このためであります。

また、世界中で起きている様々な形の戦争や不和、また、災害などを、日々テレビや新聞等で見聞きした時、また、時には、自らがその当事者になった時に、心の中でいろいろな反応を起こすのも、このためであります。

このように、自分の外側で起こる様々な出来事や問題がきっかけとなって、私どもが何らかの反応を起こすということは、同じような要素が、自分の内側に、悔い改めて赦されなければならなかった要素として存在しているからであります。

主神は今、「祖先の综合体」である私どもの中にある、至らない要素を、私どもの前に、目に見える出来事や問題として表に現し、私どもの中のどこを照らし、赦し、救ってくださったかを教えておられるのであります。

このことを認めることは、誰にとっても容易なことではありません。

しかしながら、そうした私どもの中心におられる明主様は、私どもが気づかないうちに、私どもの中にある至らない要素を主神に委ねてくださっているのであります。

私どもも、明主様に倣って、すべては主神が成し遂げてくださった救いのみ業の現れとして認め、明主様と共に主神に委ねさせていただくことができれば、それが夜の世界にピリオドを打つことになると同時に、天国人としての私どもの養いであると思います。

本日は、世界平和祈願のみまつりも執り行われましたが、私は、世界平和と、私どもが祖霊祭祀をし、先祖の方々のご霊前で祈りを捧げることは、

密接な関係があると思います。

なぜならば、私どもが身近な先祖の方々を思い浮かべる時に、その方々に連なる無数の先祖の方々も私どもの中で、今、生きておられると認めること自体が、先祖の方々にとっての大きな救いとなり、安らぎとなるからであります。

私どもは、そうした先祖の方々と共にあるものとして、始まりの天国に立ち返り、自らを赦され、救われたものとして、メシアであられる明主様を通して主神に委ねることによって、全人類の救いと世界平和を誰よりも願っておられる主神のみ心にお応えさせていただきたいものであります。

終わりに、私は、メシアという尊く大切な御名を知るに至りましたことを、明主様に結ばれたものとして、皆様と共に、主神に感謝申し上げますとともに、メシアの御名にある永遠の命の輝きが、全人類とその父母先祖の方々に、また、天地万物一切に、あまねくありますようお祈りいたしております。

ありがとうございました。

以 上